



ダッチロールする知事候補の選考 ―遅くとも連休明けには―

もとより現時点での県民の最大関心事といえは石川知事の辞任に伴う後継者の選考でありましょう。

自民党を始め各党それぞれがこれまで真剣に適材候補の擁立に奔走しながらも、未だ結論に至らないのは県民の理解できない処と存じます。

率直に云って自民党もこれまで幾人かの有能な方々に出馬の要請など、打診してまいりましたが、残念ながら承諾には至っていません。

しかし一方、今月の13日、定例の記者会見において知事は「支障物件」が除去されたことを確認した上で、正式に辞表を提出する旨表明されました。

自ずから県知事選挙の日程も決まってくる状況下、何時までも悠長に構えていられる状況下にはありません。

そろそろ各会派が同じテーブルについて忌憚のない意見を出し合って「県民の知事

を擁立する姿勢が求められる段階に至ったと私は考えます。

その上で、遅くともこの連休明けには、ご納得いただける候補者を擁立してまいりますので暫しお時間を下さい。

払拭できない開港後の不安

さて、何と云っても今日の静岡県政にとつて最重要課題は開港後の利用率であります。

正直云って今将に世界経済は「どん底」にあり、国内にあつても前代未聞の不況の嵐の中であれば、一寸贅沢な航空機利用の国内、国外の旅行、低迷する経済活動におけるビジネス利用にも一抹の翳りを覚えるところであります。

殊に東京便というドル箱路線を持たない静岡空港であれば、航空機需要は如何ほどなの不安は払拭できません。

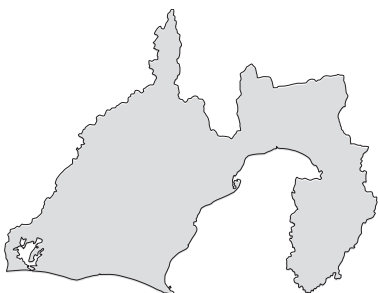
更に、開港を間近にして、新聞等には国内線の航空運賃が発表され、これを見た友人

から「何故、沖縄便は羽田空港より高額なのか」と云う返答に詰まる質問がありました。勿論、機種の大小、利用者数の多寡など空港の立地環境の相違は如何ともし難いところでもあります。苦勞して建設した「我等が飛行場」です、長い目で育てて頂きたいと存じます。

そして、当然のことながら県行政としても可能な限りの努力と英知をかかけて新たな挑戦をしていかねばなりません。

例えば、数年前から私は企画空港委員会において静岡空港の就航先として、マカオを提案してまいりました。現在、国内では関西空港と成田空港だけがマカオ国際空港に就航しているに過ぎません。

近年、マカオを訪れる日本人は激増し、これまでの観光地台湾、香港を凌駕するところとなっております。そうした観点から中部国際空港が触手を伸ばす前に本県がマカオを取り組むことを県当局に示唆してきたのであります。



安西学区を探る、その1「大応国師」ユウゴ

何故、葵区の郵便番号で井宮町が42010001に選ばれたかは誰も知らない。特別な根拠もないだろうが、名譽なことである。

そこで、安西学区を探るなら郵便番号に真似て先ずは、井宮町から、しかもこの町の看板は井宮神社です。手始めにその歴史を掻い摘まんで記しておきましょう。

市民には「妙見山」としてお馴染みのこの神社はその昔、藁科にある建徳寺の末寺でしたが、家康が三河国内津山から「妙見菩薩」を勧請して以来、「井宮神社」として今日に至つたのであります。

駿府城下への用水の取り入れは妙見山下に置かれ、それを守るべく「水

神」を祀つたところから井宮と呼ばれました。

また、井宮町の一角には「大応国師産湯の井戸」が淋しく佇んでいました。

大応国師と云えば、茶祖としても名高い聖一国師と共に静岡市が生んだ稀有の高僧であります。歴史を尊ぶ雰囲気の希薄なこの町では残念ながら殆ど知られておりません。

以前、私は福岡市立博物館(広大な敷地に悠然と構える建造物でした)を訪れた際、大きなスペースを割いて「聖一国師と大応国師」を紹介しているブースを前にして驚かされたのであります。

博物館の扱いは、両国師を恰も郷

土出身と錯覚するほどに丁寧で紹介され、私自身、この時に大応国師の足跡を学んだのでした。

嘉禎元年(1235)、安倍郡に誕生した南浦紹明は鎌倉の建長寺の大覚禅師に参禅、25歳で中国にわたり修行、帰国して1273年、大宰府の崇福寺に移り、多くの弟子を育てました。

1309年、後宇多天皇より「円通大応国師」の諡名を賜つたのであります。

「大応国師と白うさぎ」の報恩伝説は有名であります。



ます。

「¥」も同様「YEN」のYですが、アルファベッドのYと間違わないように、二本の横棒を入れたのであります。

序に「EN」を外国人はエンとは発音しません、寧ろ「イン」とのこと、結局、円はYENと標記することになったのであります。

一寸一言 私の雑記帳から

ドルが\$と表示される理由

今、米ドルが国際決済通貨・準備通貨であることはご案内のことと存じます。ところでドルを一般的に「\$」と表示しておりますが、なぜ\$に縦棒

夏服の白いシャツ

最近「衣替え」という言葉をあまり聞かなくなりました。温暖化による天候の異変やエアコンの普及で、季節による服装の違いが薄れているからです。夏服、冬服とタンスの中身を入れ替えることなく、すべての服を一年中着用しているという声もよく聞きます。

5月になると制服の「衣替え」を思い出す人が多いのではないのでしょうか。みんなが一斉に、黒っぽい学生服から白いシャツ姿になると、通学路も教室も一気に初夏の雰囲気になり、見慣れたクラスメートの顔もなんだか新鮮に映ったりしたものです。

最近制服もずいぶんとおしゃれになり、気候によって各自が調整できるようになっているので、一斉に「衣替え」を行う学校は少ないようです。制服のバリエーションも豊富になり、白以外のシャツを着ている学生さんもよく見かけます。そうはいつても、初夏のまぶしい陽ざしに一番似合うのは、やっぱり夏服の白いシャツ。たまには学生時代を思い出して、白いシャツを着て5月の街へと飛び出してみませんか。

天野進吾と創る文化祭

日時 平成21年5月28日(木)

午後6時開場 6時30分開演

会場 静岡市民文化会館 中ホール

会費 5,000円